

# まず水は

## 「飢え渴き」

「その日が来る——主なる神の仰せ。私は地に飢えを送る。それはパンへの飢えでも 水への渴きでもなく 主の言葉を聞くことへの飢え渴きなのだ。」

(アモス書 第8章11節・旧約聖書1420頁)

はじめに

預言者は神の言葉を預かりそのままを伝える役割を担っていたのですが、特にアモスは御言葉の重要さを知っていた人ではなかったかと思えます。「私を求めよ、そして生きよ」との強い勧めを受け止め、さらに私たちがどのように求めて行くのかを探りたいと思えます。

求めよ

主イエスは「求めよ、そうすれば与えられる」(マタイ7:7)と言われました。私たちは思い煩うことの多い者です。何を食べようか、何を着ようか、どう生きようか。生活の中で迷いが出てきた時、「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる」(マタイ6:33)と明確に答えておられる。信仰とは、「求める」ことなのです。

アモスは預言の中でもう一カ所「求めよ」と語っています。「善を求めよ」(5:14)です。聖書で善と言った場合、神の規準、神の御心を指しています。これは「神の国と神の義」に通じる言葉であり、具体的には御言葉だと言えます。

飢えを知る

米不足の際、異常な高騰が続きました。それでもないわけですから、高いと承知していても買わなければなりません。生きるために必要だからです。

私たちの心が疲れ、弱るのは、心に栄養が供給されていないからです。ところがこの時、その窮状を打破しようとしますが、違うものを求めてしまう。だから、いつまで経っても満たさ

れていかない。充電しているつもりで別のコードをさしているのと似ています。

この時代の人たちが、この世の乱れを問題視していないのは、目に見えるところだけを意識し、それを繕い続けているような表面的な生き方をしているからです。このままでは、そのまま世の流れに巻き込まれ、心が死んでいくでしょう。私たちが生きるためには、まず、私たちの生活の疲れの原因が心の飢え渴きがあることを知ることです。そして、その飢え渴きを深刻に受け止めなければならない問題であると、アモスは警告しました。私たちがうまく生きられないのは、また迷いが生じているのは、心が飢え渴き、危険信号が出ているからなのです。

御言葉を聞く

この世の終わりがいつ来てもおかしくない時代、世の中全体に混沌がもたらされると聖書は預言しています。だからこそ、アモスは私たちに諭すように、この預言の言葉を残したのです。

私たちの心を満たすものはパンでも水でもなく、「主の言葉を聞くこと」です。そのことを知ること、そして知って求めることをしなげば、私たちの心が死んでしまうでしょう。主イエスが荒れ野でサタンに受けた誘惑の際、はっきりと「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」(マタイ4:4)と言われたように、私たちも告白したいと思います。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】  
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



## 今週の祈り

「その日が来る—主なる神の仰せ。私は地に飢えを送る。それはパンへの飢えでも 水への渇きでもなく 主の言葉を聞くことへの飢え 渇きなのだ。」(アモス書 8:11)

「だから、あなたがたは、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い煩ってはならない。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみな、あなたがたに必要なことをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」(マタイによ



る福音書 6:33～35)

「試みる者が近づいて来てイエスに言った。『神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。』イエスはお答えになった。『人はパンだけで生きるものではなく 神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる』と書いてある。』」(マタイによる福音書 4:3～4)

私が心苦しくなった時、用枠に陥りそうになった時、自分の飢え渇きを自覚し、何よりも勝って神の言葉を求めます。私を生かしてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

## 深読みにチャレンジ!

### 箴言 (70) 第3章32節

\*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「主は曲がった者をいとい まっすぐな人と親しくされる。」

◎口語訳 「よこしまな者は主に憎まれるからである、しかし、正しい者は主に信任される。」

◎新改訳 「主は、よこしまな者を忌みきらい、直ぐな者と親しくされるからだ。」

#### 「まっすぐな人」

口語訳、新改訳のこの節は前節の「暴虐をなす者を羨むな」を受けて語っているように訳してあります。それを考慮し、協会共同訳を前節からの流れで解釈すると、「少しでも神がお嫌いになることに魅力を感じるならば、「曲がった者」と見なされて、親しくなさらない。」となります。

神が親しくなさらないのではなく、自分の態度が神の道と反しているわけですから、自分の姿勢が招いている状態です。電車に乗り慣れないある人が、橋本から相模原に向かったつもりで電車に乗ったのですが、しばらくすると「まっすぐ」行かず、「右に曲がって」いってしまいました。そうです。横浜線ではなく相模線に乗ってしまったのです。神と一緒に歩いているように見えて、実は違う線路を走っている。あるところから徐々に曲がっていき、神と共に歩めなくなる。そんなイメージをされると良いでしょ

#### 【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
  - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
  - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
  - c アゲルの言葉 (30:1～33)
  - d レムエルの言葉 (31:1～31)

う。

神は義であられる方です。そのまっすぐさは完璧です。そのまっすぐさを私たちに示されたのが十戒であり、律法です。これは私たちがどのように生きたら良いのか、その規準となりました。今まで神を忘れ、エジプトの環境でいい加減な信仰生活を送っていた神の民たちは、この律法によって、自分たちの信仰姿勢が「まっすぐなのか」「曲がっているのか」を知ることができるようになりました。神の御心にそったまっすぐな歩みを心がけましょう。

## 聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

### 【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

**【月曜日】** ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

サムエル記上第22章14節「あなたの家臣の中で、ダビデほど忠実な者がいるでしょうか。ダビデは王様の婿であり、近衛の長であり、あなたの家で重んじられている方ではありませんか。」◆サウルは、ダビデをかくまったとして、こともあろうに神に仕える祭司たちの殺害を命じた。もはや尋常ではない。祭司アヒメレクはサウルが「共謀して私に背き、刃向かっている」とまで言われたことに対し、弁明し、同時にダビデを執り成し、またサウルをいさめた。結果的に、次の瞬間に何が起こるかはわからないが、私たちはあくまでも真実を語り、神の正義を示したい。

### ●賛美 / 395 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

**【火曜日】** ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

サムエル記上第23章2節「『行って、あのペリシテ人を討つべきでしょうか。』主はダビデに言われた。『行って、ペリシテ人を討ち、ケイラを救え。』」◆「ケイラに来て、ペリシテ人と戦ってください」と要請されたが、ダビデは逃亡者だった。ダビデを慕う者は多く、この時には600人(13)の従者がいたが、その従者が「サウルから逃げるのに必死なのに、ペリシテと戦えるわけありません」と言うほどだったが、ダビデは「主が言われたのだ」と言って、ケイラへ向かう。主が戦われる。私たちがどのような状況であろうと、主の言葉に従いたい。

### ●賛美 / 396 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

**【水曜日】** ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

サムエル記上第24章7節「私はしてはならないことを、主にしました。主が油を注がれた、わが主君に対し、手を上げてしまった。彼は主が油を注がれた方なのだ。」◆自分を殺そうとするサウルを打つことができる機会がめぐってきた。従者は「千載一遇」と喜んだが、ダビデは手をかけてはならないと言った。従者はにわか理解できなかっただろう。しかし、これがダビデである。徹底的に主を信じる信仰に立っていた。そして、この「誘惑」にも乗らなかつた。主イエスのひな形であるダビデの行動を見習い、主を敬い、敵をも愛すものでありたい。

### ●賛美 / 397 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

サムエル記上第25章17節「今あなたが何をなすべきか、しっかり考えてください。」◆この頃、ダビデに付き従う者たちは600名に増え、同胞の警護をして飢えをしめていた。多くの羊や山羊を飼っていたナバルも、幾度もダビデたちに助けられていたはずだ。ところがそれに対し、何の感謝も表すこともなかったばかりか、「おまえたちは何者だ。逃亡してきた奴隷か」と言い放った。ダビデの怒りを知ったナバルの家の若い者が、たまたまらずに、妻のアビガイルにダビデに恩義を果たせと進言した。私たちが誰かしらに支えられている。傲慢になってはならない。

●賛美／398 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

サムエル記上第26章12節「見ていた者も、気付いた者も、目を覚ました者もいなかった。主から送られた深い眠りが彼らを襲い、皆眠り込んでいた。」◆明らかに、主が介入された場面である。再度ダビデは、サウルとアブネルを殺せる機会を得たが、それをしなかった。ダビデは「主が与えた機会」として殺す選択もできた。それをしなかったのは、神の御旨をたずねたからだ。そして、その結果、ダビデは相手に悔い改める機会を与えた。これこそが神のなそうとしたことだった。憎しみと復讐の連鎖を引き起こしたのではなく、正しい選択は神の平和を引き出した。

●賛美／399 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

サムエル記上第27章1節「ペリシテ人の地に逃げるほかはない。そうすればサウルはイスラエル全土で私を捜すことを断念するだろう。それで私は彼の手から逃れることができる。」◆再びペリシテに入学することは、ダビデとしても命がけの行動だったが、このまま自国にいても、サウル率いる民たちにもいい影響を与えないと判断したのだろう。彼は裏切り者のように振る舞い、アキンを信じさせ、サウルが死ぬまでペリシテの地にとどまっていた。問題が暗礁に乗り上げた時、一旦退くことも必要となるかもしれない。だが主が共にいることを忘れてはならない。

●賛美／400 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

サムエル記上第28章16節「なぜ私に尋ねるのか。主があなたを離れ去り、あなたの敵となられたのだ。」◆私たちが何かあると自分が神に捨てられたように言う。神は私を見放し、私の祈りにも答えてくださらないと考える。だが、それは違う。このサムエル記のキーワードのひとつは「捨てる」なのだが、サウルが神を捨てた、だから神はサウルを離れるしかなかったのである。私たちがサウルになってはならない。もし、神は私を捨てたと思いたくなる場面があったら、自分が神を捨ててはいないか顧みることだ。

●賛美／401 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



# おやこでせいしよ

## ●きょうのせいしよ

【サムエルきじょう 13:1~23】

「しっばいしたサウル」

(しへん 33:18)

イスラエルはじぶんたちにおうさまがあたえられたことをかんしゃしました。

でも、イスラエルのくにのおうさまは、ほかのくにのおうさまとはちがいました。ふつうはおうこくでいちばんえらいのはおうさまです。でもイスラエルのおうこくでいちばんえらいのはかみさまです。そしておうさまはかみさまのことばにしたがわなければなりません。そして、おうこくのひとびとにかみさまをしんじるしんこうのおてほんにならなければなりません。ところが、サウルは「おうさま、おうさま」とよばれるようになって、だんだんころろがかみさまからはなれていきました。

そのころ、いつもペリシテじんとたたかいがおこっていました。でも、イスラエルはたたかっても、なかなかかてません。それは、

ペリシテじんがてつのぶきをもっていたからです。イスラエルにはてつのぶきをつくることのできるひとがいなかったのです。

あるたかいで、ヨナタンのぶたいがペリシテをやぶりました。すると、そのしかえしにペリシテじんはせんしゃ3まん、うまにのってたかうひとが6せんにん、そしかぞえきれないほどおおくのへいしたちをあつめてたたかいのじゅんびをしはじめました。

そのとき、サウルはあまりにもあせってしまっていたのでしょう、やってはならないことをしてしまいました。たたかうときにはサムエルがきて、かみさまにおいのりをするれいはいをもっていたのですが、それをまたずに、じぶんでいいかげんなれいはいをすませ、たたかいにでかけようとしたのです。

おくれてきたサムエルはいいました。「あなたはかみさまをすてたから、かみさまもあなたからはなれました。あなたはてきにかつことはできません」。なんとかなしいことでしょう。

## ●かんがえてみよう

☆ペリシテじんたちはどのくらいのへいをあつめましたか。(サムエルきじょう13:5)

☆イスラエルのへいしたちはそのことをして、どのようにおもっていましたか。(サムエルきじょう13:7)

☆サムエルはサウルがかってにれいはいをささげたことをして、なんといいましたか。(サムエルきじょう13:13)



# なみむ聖書

## もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

おろかなことをした

し	か	と	ろ		こ	を		た
		を	し	と	た	こ	か	ろ
こ				お				し
な		し	た	か	ろ		こ	を
	こ		を				と	な
ろ			な	こ		し		
	ろ			た			を	と
	し	た	こ	を				
						た		

## ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① ざみみのしあげ
- ② いしびゆた
- ③ かなんのか
- ④ あぐらな

## まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





# 牧師の 聖書 ななめ読み

「参拝電車」

小田急線はよく利用するのですが、1927年に新宿と小田原をつなぐ路線として開業、2年後は相模大野から片瀬江ノ島路線が加わって現在に至ります。

江ノ島は今でこそ海のレジャースポットになっていますが、昔から観光というか参拝に訪れる人たちが多かったわけで、小田急もその参拝客を当て込んで、江ノ島まで延伸したわけです。そもそもその時はまだ相模大野が「高座郡大野村」と呼ばれてい

た時で、沿線の通勤客など、あてにならなかった時代でした。京急も参拝客のための川崎大師までの大師線を通して、初期の営業を安定させたわけですが、当時はそのような参拝電車、参拝路線として開業した路線は多かったようです。

私鉄の中で営業距離が一番長いのは近鉄なのですが、この近鉄も参拝路線を多く作って営業収益を上げました。大阪から奈良までの奈良線、名古屋から伊勢神宮に通じる鳥羽線、そして大阪から吉野山に行く吉野線。これらの参拝路線の合計は170kmにもなり、なんと営業距離500kmの3分の一をしめています。

駅近がいいなんて考えますが、駅を作ってもらえるくらいになるといいですね。

## 聖書ふれあい街歩き

### ●バビロンに攻める国

エレミヤ書には神の民への嘆きだけでなく、バビロンの滅亡までも記されています。バビロンは非常に強大な力をもって、多くの国を侵略し、その領土を広げたのですが、徐々にほころびが出てきて、様々なところから反乱軍が起こり攻めてくる様子わかります。

第51章では「アラト、ミンニ、そしてアシュケナズ」が挙げられています。それぞれを確認してみると、アラトはノアの箱舟がとどまったことで有名ですが、トルコ東部、ミンニは現在のイラン北西部、そしてアシュケナズは黒海とカスピ海に挟まれた地域に住んでいた遊牧民と言われています。つまり、バビロンは、勢力範囲を囲まれるようにして、四方から敵に襲われて滅亡する、その北からの敵、脅威として、この三国が代表のようにして登場したのです。

ただ、バビロンを実際に滅ぼしたのは、紀元前539年のメディアとペルシア連合軍でして、その三国の名前は出てきません。この三国ともこの時点では国自体が消滅、または衰退していたからです。おそらくは地域からしてメディアに吸収されてしまった可能性が高く、つまり、ペルシア、メディアはそのような小国を取り込んでバビロンを破ったとも言えます。

## ななめ聖書 先週のこたえ

み	ち	を	え	よ	し	い	る	お
る	し	お	を	み	い	よ	ち	え
え	い	よ	ち	お	る	し	を	み
お	を	い	る	え	み	ち	し	よ
よ	み	し	い	を	ち	え	お	る
ち	る	え	お	し	よ	を	み	い
を	え	る	し	い	お	み	よ	ち
い	よ	ち	み	る	を	お	え	し
し	お	み	よ	ち	え	る	い	を

- ①すぐれたわかもの
- ②せがたかかった
- ③さばくおう
- ④ばんざい



## エフェソでのパウロ

そして、町中が混乱に陥った。彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人のガイオとアリストルコを捕らえ、一団となって劇場になだれ込んだ。パウロは群衆の中へ入って行こうとしたが、弟子たちはそうさせなかった。また、パウロの友人であったアジア州の議員数人も、パウロに使いをやって、劇場に入らないようにと頼んだ。さて、群衆はあれやこれやとわめき立てた。集会は混乱するだけで、大多数の者は何のために集まったのかさえ分からなかった。その時、ユダヤ人が前に押し出したアレクサンドロという者に、群衆の中のある者たちが話すように促したので、彼は手で制し、群衆に向かって弁明しようとした。しかし、彼がユダヤ人であると分かると、群衆は一斉に、「偉大なるかな、エフェソ人のアルテミス」と二時間ほども叫び続けた。

(使徒言行録19:29～34)



エフェソの劇場

## 【ガイオとアリストルコ】

私が聖書を読み始めた時、混乱したのが名前でした。考えてみれば当たり前なのですが、同姓同名がいるように、聖書の登場人物もまた同名がいるわけで、しかも、家族名は「〇〇の子」「〇〇族」程度、当然ながら漢字表記でもないため、より区別を難しくしているわけです。

例えば、ヨハネもヤコブも別人が複数います。資料が多ければ判断できますが、登場回数が少ないと、どう判断したら良いかわかりません。ここで、パウロの同行者として捕らえられたガイオとアリストルコもそうなのです。

彼ら2人は、マケドニアにおいて信仰を持ち、パウロがエフェソに向かっているか、来ていることを聞き、エフェソで合流したと思われる。

まずガイオですが、この箇所他に20章4節に「デルベのガイオ」と記されています。デルベは小アジアのガラテヤ州、つまり現在のトルコ東部にありましたから、ギリシアのマケドニアとはかけ離れています。別の人物だと判断せざるを得ません。次にコリントから書き送ったとされるローマの信徒への手紙に「私と全教会との家主であるガイオ」(ローマ16:23)とありますが、不動産を持っていることから判断し、明らかに地元コリント人でしょう。なので彼も別人でしょう。コリント1章14節の「ガイオ」はパウロから洗礼を受けている人として紹介されていますが、同一人物であってもおかしくありません。知りたいのは「愛するガイオへ」と書かれているヨハネの手紙三のガイオなのですが、グノーシス主義を取り上げているので、小アジアにあった教会かも知れませんが、教会名が記されていないので、同一人物と

しては特定できません。

では同郷コンピとしても考えられる、アリストルコも同様に見ていきましょう。まず、「デルベのガイオ」が登場した使徒20章4節に「テサロニケのアリストルコ」が出てきます。これはマケドニア州のテサロニケですから、同一人物だと言えます。そしてパウロが囚人としてローマへ送られる時、「テサロニケ出身のマケドニア人アリストルコ」(使徒27:2)が同船、パウロを支えていることが分かります。もちろん同一人物でしょう。

なので、ローマから書いたと思われるパウロの書簡には、「私と一緒に捕らわれの身となっているアリストルコ」(コロサイ4:10)、「私の協力者たち、マルコ、アリストルコ」(フィレモン1:24)と記されています。

アリストルコはその後、パウロに同行しローマでも支え続けていることが分かりますが、ガイオは当時では多い名前だったようで、この後のことがわかりません。ヨハネの手紙が書き送った人物だったなら、このガイオはよい働きを続けていったのだと思います。

しかし、今まで見てきましたが、パウロの同行者、また協力者はが来ると、周りの人たちも相当の迫害が及びます。この騒乱騒ぎでも合流して間もない2人が捕らえられてしまいました。暴徒が劇場になだれ込んでいった時、「弟子たちはそうさせなかった」とありますから、体を張って防いだのでしょう。この時には「パウロの友人であったアジア州の議員数人」も協力者としていましたから、パウロがどれほど熱心に伝道していたかが分かります。パウロはその人たちに守られたのです。

## キリスト教まるわかり Q&A

### ◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

### ◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

### ◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

### ◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

### ◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

### ◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

### ◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

## 2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

### \*\*\*顕現節(1/6～#3/4)\*\*\*

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

### \*\*\*四旬節(#3/5～#4/12)\*\*\*

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

### \*\*\*復活節(#4/20～#6/7)\*\*\*

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

### \*\*\*聖霊降臨節(#6/8～#11/29)\*\*\*

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

### \*\*\*待降節(#11/30～12/24)\*\*\*

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

### \*\*\*降誕節(12/25～1/5)\*\*\*

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

### 【記念日】

母の日(5/11・5月第二)  
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)  
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)  
父の日(6/15・6月第三)  
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)  
宗教改革記念日(10/31・1517年)  
収穫感謝日(11/23・11月第四)

### 【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)  
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)  
聖書愛読週間(#3/23～29)  
みふみの日(3月23日)  
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)  
最後の晩餐集会(#4月17日夕)  
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二\*今年は第一)  
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)  
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)  
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)  
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)  
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

## 教会紹介

### ●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

### ●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

#### 【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

## 教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか  
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲  
げています。

わたし  
私たちはイエス・キリストを救い主として信じ  
ています。

しゅ  
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改  
めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、  
ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵み  
を明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、  
十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の  
国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の  
国に属して生きる者となった私たちは、聖書が  
示しているこの時代に、使命を全うすべ  
く、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と  
信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与  
えられた教会の一員とされたことを覚えながら、  
聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩  
みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

## MEMO

## 単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

